



# 発電量 12.4 メガワット: ナコーンパトム (タイ)

## 2つの画期的な出来事: Conergy による 2つめの発電所

ナコーンパトム県の Sai Prapa および Sai Yoi にある 12.4 メガワットの太陽光発電所に続いて、Conergy と現地の提携企業 Annex Power は、タイ国内の太陽光発電所を開発するために Solarta として共同事業契約を締結した出資者の Yanhee Solar および Ratchaburi Electricity のために、新たに太陽光発電所を建設しました。この太陽光発電所の面積は 268,500 平方メートルで、サッカー場 25 面に相当する広さです。

新しい太陽光発電所では、品質が主要な役割を果たしています。56 km に及び Conergy SolarLinea 架台に設置された 56,000 枚の Conergy Powerplus 太陽電池モジュールによって、最大限の生産性を実現しました。200 台を超える Conergy IPG15T および 25 台の IPG 300C セントラルインバーターによって、年間 19,500 メガワットアワーのクリーンな電気が地元の送電網に現在供給されています。新しい太陽光発電所は、タイ国内の 7,700 以上の世帯にクリーンな電気を供給する一方で、年間 11,500 トンの二酸化炭素排出を抑制しており、クリーンかつ安全で信頼性の高い電気を大規模に供給する際に、太陽光発電が重要な役割を果たしていることが明らかとなっています。

## 高品質によって出力保証に対応

今回の 12.4 メガワットのプロジェクトは、Conergy のシステムテクノロジーに加えて、モジュール出力保証のような追加サービスによる恩恵を受けています。「Conergy の高品質な構成部品に対する今回の選択は、価格に敏感なアジア市場においてさえも、品質が重視されつつあることを示しています。弊社の包括的なサービスは、構成部品に付加価値を加えています。サードパーティの保険会社が保険を引き受ける、弊社の優れた出力保証のソリューションは、10 年間でモジュール出力の 90% まで保証の対象とします。こうした保証は、以前はアジアではほとんど考慮されませんでした。今では非常に優れた計画および投資の防衛手段を生み出しています。」と、Conergy の東南アジアおよび中東部門担当社長、Alexander Lenz は述べています。

## 化石燃料や原子力に替わる太陽光: タイで推進中の太陽光の将来

すでにタイでは、クリーンエネルギーへの方針転換が行われています。Yanhee Solar の創業者兼 CEO である、Supot Sumritvanitcha 博士のような出資者によって、タイの太陽光発電の将来への道筋が立てられています。「日本の現在の状況は、タイ国内でのソーラーエネルギーへの投資の拡大を通じて我々が正しい方向に進んでいることを改めて示しています。私にとっても、我が国、環境、およびグローバル経済が弊社の投資から恩恵を受けていることは、喜ばしいことです。その上、ソーラーエネルギーは、投資に対して優れた利益をもたらします。弊社と同様、優れたパートナーと提携した場合には格別です。品質、納入、価格の観点から、初の大規模な太陽光発電プロジェクトにおける Conergy および Annex Power の仕事に非常に満足しています。両社には、最適化したシステム設計から建設に至るまで、優れた品質を提供するために必要な技術と適切な人材が揃っているのです。」



プロジェクトの概要	
日付	2012 年 8 月
場所	ナコーンパトム (タイ)
発電量	12.4 メガワット
年間生産メガワットアワー	年間 19,500 メガワットアワー
太陽電池モジュール	Conergy PowerPlus 56,000 枚
パワーコンディショナー	Conergy IPG 15T 200 台 および IPG 300C 25 台
架台	Conergy SolarLinea
発電所の規模	268,500 平方メートル
二酸化炭素削減量	11,500 トン/年

